【248】

氏　名（本籍）	石塚千秋（東京都）
学位の種類	博　士（医　学）
学位記番号	博甲第 2688 号
学位授与年月日	平成13年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	医学研究科
学位論文題目	Clinical characteristics and backgrounds of psychiatric patients coercively brought to hospitals （精神科における強制来院患者の臨床的特徴・社会的背景に関する研究）
主　査	筑波大学教授　医学博士　嶋本　喬
副　査	筑波大学教授　博士（医学）　大久保一郎
副　査	筑波大学助教授　医学博士　鈴木利人

論文の内容の要旨

（目的）

近年，19世紀から20世紀初頭に欠けて全盛であった病院医療の限界や精神障害者の人権擁護の活発化などの影響により，精神医療の基盤は，病院中心医療から地域医療へと移行してきている。このため，治療動機が乏しいことが原因で，地域医療主体の医療体制では継続治療が困難な患者がめだつようになってきた。このような精神医療の現状においては，動機付けの乏しい患者に対する有用な治療戦略の確立が早急に望まれる。そのためには動機付けに乏しい患者の特徴を把握する必要がある。本研究では患者の治療動機と関連する因子を検討するために，患者の環境的側面を表す因子に注目して，強制的に来院した患者を対象とし，非強制的に来院した患者と比較してその特徴を調査した。更に，補足として，治療の動機付けと患者とその世話人との関係の質との関連についても検討を行った。

（対象と方法）

農村部新興住宅地混合地域に位置する2つの私立精神科病院において，1997年4月1日に在院した，現入院前に入院歴をもつ入院患者287人を対象とした。287人中214人（74.6%）が精神分裂病あるいは分裂感情障害と診断された。これらの患者の臨床的特徴，社会的背景について診療録上の記載及び主治医，関係医療スタッフからの聴取をもとに，retrospectiveにデータを収集した。また，治療動機の乏しい患者を入院時の来院状況で，強制来院群と非強制来院群の2群に分類・比較した。更に近親者と同居していた患者群を選択し，その群における強制来院群と非強制来院群の比較も実施した。補足の研究においては，上記2つの施設とは異なる私立精神科病院に1998年1月から2000年10月に入院した強制来院患者27人を対象とし，これに性別，年齢，診断をマッチングさせた非強制来院患者27人を対照とした。これらの患者における主な世話人が親か否か，患者と主な世話人との関係の質について主研究同様に診療録及び主治医からの聴取によって，そのデータを収集した。

（結果）

主研究の結果；多変量解析の結果からは服薬コンプライアンス不良，入院前の通院が不規則であること，自傷他害歴を有すること，独居の4つが強制来院に関連した。近親者との同居群においては，多変量解析で自傷他害

歴の有無，焦燥感の有無の項目において，２群間に有意差を認めた。また，親が主な世話人であるか否かという項目においては，統計的な有意差は認めないものの，２群間に有意傾向を示した。

補足研究の結果；患者と主な世話人との関係が不良であることは強制来院に関連した。また，親が主な世話人である方が，患者と主な世話人との関係は不良になりやすいという結果も示された。

（考察・結論）

強制的に来院した患者の特徴について，非強制的に来院した患者の特徴との比較検討を実施した結果，精神医療全般においても患者をとりまく環境的側面は，患者の治療への動機付けに影響することが示唆された。同居人の有無や患者のその世話人との関係など環境因子は患者の治療の導入，継続の面で重要な役割を果たすことが示唆された。そして，患者の治療動機を高めるためには，患者及び患者の近親者，特に親に対する訪問指導，心理教育など医療スタッフの積極的な介入が必要であることが示唆された。また，本研究結果から自傷他害歴有，服薬コンプライアンス不良，不規則通院，独居は，治療動機，特に来院に対する動機付けの乏しい患者を特定，あるいは予測する際の有用な指標となることが数量的なデータとして改めて呈示された。

審査の結果の要旨

近年，精神医療の基盤が病院中心医療から地域医療へと移行しつつある中で，治療動機の乏しい患者が継続治療しにくく，強制的な来院となりがちな問題点に着目し，治療動機の乏しい患者に対する治療戦略の確立を究極の目的とし，２つの精神病院の入院患者287人を対象として，治療動機の乏しい患者の特徴を強制来院患者と非強制来院患者の比較により把握しようとした。その結果，本研究は人権擁護の観点からすすめられている地域医療主体の精神医療体制を改良発展させるには，攻撃性の有無等の臨床的特徴，同居人の有無や世話人との関係などの社会的背景を重視した取り組みが重要であることを示唆しており，先駆的な研究として評価される。

しかし，本研究は農村部と新興住宅地の混合地域における病院の入院患者についての成績であり，都市部など生活環境の異なる病院での検討，さらには対象病院や患者を増やして精神分裂病及び分裂感情障害のみに限った検討，等も今後必要である。また，地域医療主体の医療体制の問題点を指摘した研究である以上，病院の入院患者のみでなく，特定地域の患者についての悉皆調査，或いは抽出調査なども今後必要となろう。

よって，著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。